



八幡小だより

北九州市立八幡小学校
校長 田頭 麗宏



けいちつ

啓蟄や 脱ぎし羽織を 濡縁に

星野 立子



2月末から天候が不安定ですが、今のところ寒波は来ないようです。私たちの周りでは一日一日確実に、春の訪れが五感を通して伝わってくるようになりました。もちろん、この感覚は人間だけではありません。6日(水)は、大地が暖かくなって、冬の間地中にいた虫が這い出てくるとされる「啓蟄」です。立子の句からは、運動場で遊ぶ子どもたちが脱いだジャンパーなどがそのまま残されてしまっている様子が思い浮かびます。

さて、3月15日(金)に、本校第138回卒業証書授与式をとり行います。49名の卒業生たちはこの一年間、「八幡小学校の顔」として全校児童を引っ張り、また後押ししてくれました。元気に日々の学校生活に取り組むその姿が、学校全体のよい雰囲気づくりに大きな影響を与えたことは確かです。その門出を、在校生や6年生保護者の皆様、地域の皆様とともに温かい拍手で祝いたいと思います。



ところで、本日インフルエンザによる欠席者は1名です。日中暖かい日でも、朝晩はまだまだ冷えます。これまで同様、健康管理をよろしくお願いいたします。

子どもたちの心身の健やかな成長のために

先日配布された保健だより、各学年の年間の身長・体重の伸びの平均値が記載されていました。単純に全学年の伸びを合計すると、身長は29.1cm、体重は18.9kgになります。あらためて小学校6年間の成長の大きさを感じます。もちろん、個人差はありますし、対象の子どもたちは違うので、あくまでも参考数値ですが・・・。



さて、「八幡小だより30号」で体力向上の取組を紹介しましたが、その基盤にあるのは『健康』に他なりません。学校では、体育科(保健分野)や家庭科などで健康教育を行っています。しかし、健康づくりにおいて欠かせないのは、ご家庭での取組だと思えます。例えば、健康につながる好ましい生活習慣の合言葉として「早寝・早起き・朝ごはん」は有名ですが、実践する場合は当然、各ご家庭です。



また、歯磨きも同様です。北九州市の子どもたちの虫歯の割合が高いことから、本校では今年度、学年ごとに全校で「歯磨き指導」を実施しました。子どもの発達段階に応じた内容を、ブラッシングの実技を加えて行いました。子どもたちの感想からは意欲の高まりが分かりますが、定着するためにはご家庭の協力が不可欠です。

そして、忘れてはならないのが「心の健康」です。千葉県野田市の児童虐待事件は本当にかわいそうであり、許せない気持ちになります。が、「身体は傷つけないが心を傷つける」虐待や、「面倒を見ずにほったらかしにする」虐待が、全国的に急増しているそうです。一方、そうしたかわわりと180度対極と言える「過保護」「過干渉」も、子どもの健全な育成に悪影響を及ぼしています。自分で考えて行動する気持ちが育たず、すぐに人に頼ったり、人のせいにしたりという残念な結果になりがちだからです。いずれも、心の健康に悪影響を及ぼすものだと考えます。

学校での指導、ご家庭でのしつけが、車の両輪のように機能することを目指して、これからも連携を深めていきたいと考えています。よろしくお願いいたします。

「ご存知の通り、本校には「難聴特別支援学級」、通称「耳の教室」があります。ですから、耳の日に限らず、難聴の友達とのよりよいかかわりができるような指導を日常的に行っています。例えば、難聴のシミュレーションをしたり、補聴器への理解を深めたりと、学年に応じた内容にしています。また、交流学級での学習の際、先生の話その場で筆記して、理解を助ける『ノートテイク』ボランティアの方々もいます。本当にありがとうございます。

3年生から 耳の教室

